

京に現代中国の研究拠点

京都大人文学研究所 本年度から進める現代中国（京都市左京区）はこのほ 研究の拠点として、東京大、
ど、現代中国について人文 総合地球環境学研究所（京
学を中心に統合的な研究を 都市）などとともに京大が
進める付属現代中国研究セ 選ばれた。中心となる組織
ンター（センター長・森時 として、東洋学で世界的な
彦教授）を開設した。三十 実績と蓄積のある人文研
一日午後二時から、同研究 センターが設立された。
所で記念講演会「京都モデ 「現代中国文化の深層構
ルの現代中国研究をめざし 造」「現代中国政治の社会
て」を開く。 基盤」の二研究グループを
大学共同利用機関法人・ 発足させ、それぞれ中国社
人間文化研究機構（東京） 会主義文化や二十世紀中国
が、イスラム研究に続いて 社会システムをテーマに、

京大人文研がセンター開設

文化・政治2分野中心

所内外の研究者が参加した
研究会を始めている。

年度内に予定している研

究所の本部構内への移転に

あわせ、新研究棟内に「現

代中国情報資料集積基地

（仮称）を整備して、一

九五〇年代から八〇年代に

かけての中国の地方新聞コ

レクションなど世界的に貴

重な資料の活用を図る。

センターの石川禎浩准教
授（中国近現代史）は「人
文研の伝統と蓄積をもとに
腰を据えて研究を進め、国
際的な研究拠点にしていき
たい」と話している。
三十一日の講演会は、森
センター長が人文研の中国
研究とセンターについて紹
介、王汎森・台湾歴史語言
研究所長、汪朝光・中国社
会科学院民国史研究室主任
が講演する。当日受け付け
で無料。

31日に記念講演

現代中国の文化、社会、政治、経済、環境、安全保障などの問題を多角的、総合的に分析するセンターが、全国6か所の大学、研究機関に開設された。このうち関西には、京都大学人文科学研究所（京都市左京区）に付属現代中国研究センターが、総

り巨視的、実証的な立場から現代中国につながる潮流に迫る。

中国の統治システムの源流を歴史的視野から考察し、旧来の社会主義イデオロギーとの

摩擦、葛藤を経て形成された新しい文化潮流に迫る。一方、総合地球環境学研究所では、「開発による文化・

合地球環境学研究所（同市北区）内に中国環境問題研究拠点が置かれる。

京大人文研では、「人文学の視角から見た現代中国の深層構造」をテーマに、8人の教授、准教授が参画する。△京大東洋学▽と呼ばれた戦前か

中国社会と環境の変容」をテーマに、8人の教授、准教授を中心に、中国各地域の▽水問題▽災害問題▽食料問題▽エネルギー問題▽文化多様性の喪失問題——の実態を明らかにしていく。現地調査には中国・雲南大、北京師範大、チ

ベット研究所などと共同であり、国際シンポジウムなどを通じて提言も行う。

合地球環境学研究所（同市北区）内に中国環境問題研究拠点が置かれる。

京大人文研では、「人文学の視角から見た現代中国の深層構造」をテーマに、8人の教授、准教授が参画する。△京大東洋学▽と呼ばれた戦前か

中国社会と環境の変容」をテーマに、8人の教授、准教授を中心に、中国各地域の▽水問題▽災害問題▽食料問題▽エネルギー問題▽文化多様性の喪失問題——の実態を明らかにしていく。現地調査には中国・雲南大、北京師範大、チ

ベット研究所などと共同であり、国際シンポジウムなどを通じて提言も行う。

中国研究 関西に2拠点

合地球環境学研究所（同市北区）内に中国環境問題研究拠点が置かれる。

京大人文研では、「人文学の視角から見た現代中国の深層構造」をテーマに、8人の教授、准教授が参画する。△京大東洋学▽と呼ばれた戦前か

中国社会と環境の変容」をテーマに、8人の教授、准教授を中心に、中国各地域の▽水問題▽災害問題▽食料問題▽エネルギー問題▽文化多様性の喪失問題——の実態を明らかにしていく。現地調査には中国・雲南大、北京師範大、チ

ベット研究所などと共同であり、国際シンポジウムなどを通じて提言も行う。

大学共同利用機関法人・人間文化研究機構が、各大学、機関と共同で設置。関東では、早稲田大学、東京大学、慶応義塾大学、東洋文庫の4拠点で、政治、経済、外交といった今日的な問題を扱う。これに比べ、関西の2拠点は、よ

らの人文系中国学の蓄積をふまえ、所蔵の地方新聞、各種年鑑、地方誌などを「現代中国情報資料集積基地」として再編し、一部データベース化も進めていく。

センター長の森時彦教授（中国近現代史）は、「現代

各拠点は相互に連携し、国内外の研究組織ともネットワーク化を進めながら、それぞれ5年計画で研究成果をまとめる。関西の両拠点には、時流に流されない△関西モデル▽の研究成果を期待したい。（朋）